

デンデンガッサリ

デンデンガッサリ保存会 会長

山本 勝己



中村副会長



太田事務局長

〈山本〉 皆さんこんにちは、私はデンデンガッサリ保存会の代表を務める山本でございます。よろしくお願いたします。今日は年末にもかかわらずお忙しい中、大勢の方のご来場、誠にありがとうございます。今回、当商工会議所より、講演依頼がござい



まして保存会といたしましても良きPRできる機会と捉え、承諾いたしました。このデンデンガッサリは舞木町の山中八幡宮拝殿にて毎年正月3日 午後2時より行われているお田植え神事であります。昭和初期までは旧正月3日の夜行われていました。子供たちも大勢集まり、この夜は何をやっても神様が許してくれたと言う伝えがあります。祭りの内容ですが、歌と科白所作、所作とは動作のことです。全体として単調で素朴なものです。田gone、田goneとは田んぼの土を足でこねることです。田植え、刈り取り、最後に牛で家まで運ぶというストーリーを前歌・後歌・科白・所作によって演じています。平安・鎌倉時代から続いていると言われ、昭和47年に岡崎市の無形民俗文化財に指定を受けました。

機会あるたびに私たちは、愛知県民俗芸能大会等に出演し、過去大きなステージとしまして愛知万博に出演しました。

毎年正月3日に行っているデンデンガッサリは繰り返し部分が多く、時間が相当かかりますので、本日は短縮して実演を行いますのでよろしくお願いいたします。

本日は、山中八幡宮のいわれ、歴史等について太田が画像を使って説明をいたします。続いて、デンデンガッサリの説明を中村が行います。

申し遅れましたが、年明け正月3日には恒例のデンデンガッサリが山中八幡宮でありますので、初詣がてら是非見に来ていただきたいと思ひます。

簡単ですが、挨拶に代えさせていただきます。

それではまず山中八幡宮のいわれ、歴史等について太田が説明いたします。よろしくお願いいたします。

その後正月3日に行ったデンデンガッサリを収録したもの(約5分程)を画面で見たいと思っております。よろしくお願いいたします。

そして、その後休憩を5分程とって本番のデンデンガッサリの実演をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず山中八幡宮のいわれ歴史等について、太田より説明いたします。

〈太田〉 こんにちは。伝統ある山中八幡宮デンデンガッサリの講演会にお越しくございましてありがとうございます。

早速始めたいと思ひます。写真を使ってのつたない発表となりますが、よろしくお願いいたします。

このデンデンガッサリは昭和47年7月5日岡崎市指定の無形文化財として指定されました。また、岡崎市キラリ百選No.79番に指定されています。



感謝状

- ・昭和43年1月4日NHKのふるさとの歌まつり(全国放送)に出演。



- ・左上が司会者の宮田輝、右上には坂本九と水前寺清子さんが載っております。
- ・これは先輩たちが行っている所作の1コマ、子供たちに弁当を配っている1コマです。

さて、

デンデンガッサリとは一体なんだろうかの辺のお宮で行われているんだろうか
いつ頃から行われてきたものだろうか
何かエッチな内容の歌と聞いたが…
一度見に行ってみようか

などなどで興味しんしんのところがあるかと思えます。

それでは、これらをひとつひとつ解説を交えながら進めてまいりたいと思います。

私たちデンデンガッサリ保存会のメンバーは現在16名です。保存会は古くからありました。昭和57年1月3日付けで大きく若返りがありましたが、今は年配者が大半です。

最初に、デンデンガッサリ保存会の活動状況を報告したいと思います。

毎年正月3日の午後2時から山中八幡宮拜殿で行われるこのデンデンガッサリの行事に参加しております。そのほか、愛知県内の各地で行われる民俗芸能大会などに数々出演してまいりました。

主なものをすこしご紹介をさせていただきます。

- ・昭和28年東海北陸古典芸能発表会に出演
これは昭和28年10月17日愛知県商工館ホールで行われた東海北陸古典芸能発表会への出演に対する愛知県教育委員会からの感謝状です。



平成17年4月27日愛・地球博(長久手愛知県館)の会場でデンデンガッサリの実演を行いました。



・鎌に見立てた餅を持って、稲を刈り取った後、デندنガッサリの主となる、豊作の稲を刈り取って牛の背に乗せて家に運ぶ所作です。



これは愛・地球博出演に対する岡崎市長からの感謝状です。

その他数々の出演をしてみました。

そして今回の岡崎学。

さらに、来年2月6日には刈谷の刈谷市総合文化センターの愛知県民俗芸能大会への参加を予定しております。

また、岡崎のケーブルテレビのミクスは毎年正月三日のデندنガッサリを撮影し放映しております。そのほか、毎年中日新聞などの新聞にもよく掲載されてきました。

デندنガッサリが育まれてきた山中八幡宮の“いわれ”と“現況”の話をさせていただいた後、デندنガッサリのエッチな事柄を含む歌と豊作の結果を表した所作をご披露させていただきたいと思っております。

まず、山中八幡宮がどこにあるかと申しますと、画面をご覧くださいと思います。



次に写真で紹介しますと、



本殿前の塵取り門



徳川時代中期の山中八幡宮

さて、まず、最初に山中八幡宮の生い立ち、つまり、なぜ、この地に山中八幡宮ができたのかということをもひも解いてまいりたいと思います。

これは新編岡崎市史 原始・古代1の389ページに掲載されている三河国の駅家の地図です。ここに「山網駅家」として記されております。

さて駅家とはなんのことかということですが、この岡崎市史によりますと律令国家（飛鳥・奈良時代）（中央集権国家）は、東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道の七道を動脈にして京への道を整備したと記されております。



駅家はこの七道に配された駅制に基づく公的施設といえるものと記されております。

そしてこの駅家は何をすることであったかという、急速の大事を中央に知らせる古代の通信制度にあって、地方に変事が起きた時、早馬を乗り継ぎ都に知らせるため約16km毎に置かれたもので、官

吏のみが利用できた施設であったと記されております。山綱駅家の東には宮地駅家(現在の赤坂あたり)、西には鳥取駅家(現在の宇頭あたり)があったものとされております。

そしてこの山綱駅家は、孝徳天皇大化2年(西暦646年)に関東と京を結ぶ道に、駅制が敷かれ、「山豆奈駅家」ができたといわれています。

さて、この山綱駅家の話をなぜするかといいますと、

山中八幡宮は西暦646年に駅家制度ができて53年後の西暦699年に、この山豆奈駅家の人たちの守り神として、稲前神社の名称で祀られたということです。



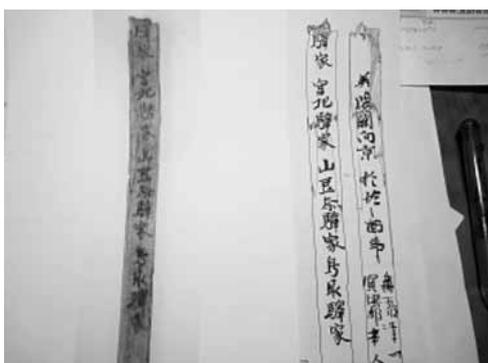
稲前神社(通称“奥の宮”)

山中八幡神宮記によりますと山中八幡宮の前身は稲前神社(通称“奥の宮”)と言って文武天皇3年9月9日(西暦699年)に初めて「供物の礼を行う。」と記してあります。

そこからこの山中八幡宮が始まったと言えるものと思います。その後名称は何度か変わり、現在の山中八幡宮となりました。それは後程説明をさせていただきます。

では、この山豆奈駅家が本当に実在していたかどうかという証拠ですが、静岡県浜松市内の伊場遺跡(奈良時代の地方の役所跡)から出土した木簡に「山豆奈駅家」と記されていたということからわかりました。

浜松市博物館より写真を送っていただいたものをデジカメで撮ったものです。



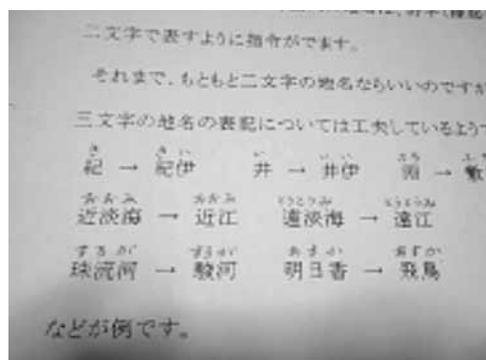
伊場遺跡から出土した木簡(木の札)

木簡にはご覧の通り、上から宮路駅家、山豆奈駅家、鳥取駅家とするされていることがわかります。

そしてこの木簡について、伊場遺跡から出土した木簡を管理する浜松市博物館に聞いたところ奈良時代のものと教えていただきました。

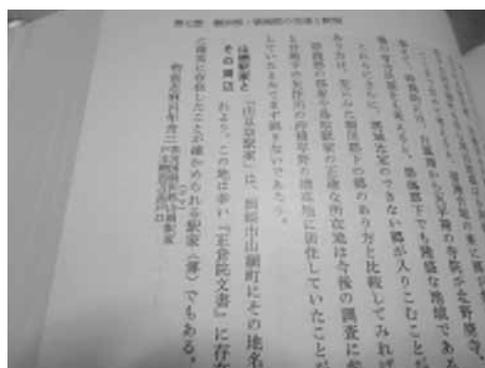
ところで、山豆奈駅家が山綱駅家となったいきさつを浜松市博物館に聞いたところ、その昔、(西暦712年にお上から国内の地名は好字(縁起の良い字)二文字に表すよう指示)があつて、二文字の山綱駅家となった旨を浜松市博物館(太田氏)より聞きました。

その例はいくつかあるそうです。画面をご覧くださいと、これは浜松市博物館より取り寄せた資料です。



浜松市博物館より好字の例の紹介

別の証拠としては、新編岡崎市史の395ページに「正倉院文書」に載っており、間違いなく存在していたことが確かめられております。



そしてもう一つ、それは、山豆奈駅家から変わった山綱駅家が山綱町の地名で現存するという事です。

つまり、西暦699年に山綱駅家の守り神で始まり形は変われど、現在まで1311年続いているということになります。

私事ではありますが、今年10月15日に、奈良の平成遷都1300年祭へ、そして平等院と高松塚古墳を見てまいりました。

高松塚古墳を見に行ったときにいただいた年表です。

飛鳥時代歴史	
538年	百濟から仏教が伝わる(聖徳太子)
574年	聖徳太子崩御
588年	法興寺建立にかかわる
592年	藤原皇子、御徳天皇を即位
593年	聖徳太子御42忌(豊浦宮)
600年	第1回遷葬地、新藤原宮を築造
603年	近江12箇郡(小郡4郡)
604年	聖徳太子、13歳遷葬法を行な
606年	飛鳥大石の墓、横穴式
636年	第1回遷葬地
643年	新藤原宮、(新)大元寺を築造
645年	大元寺の改修(飛鳥天皇)
659年	中大兄皇子、新藤原宮に遷す
673年	中大兄皇子(聖徳太子)崩御
672年	大津入道(中大兄皇子)を遷す
673年	新藤原宮の改修(中大兄皇子)
679年	聖徳太子の御廟を遷す
683年	中大兄皇子、御廟の改修を行な
688年	大津皇子、御廟の改修を行な
689年	飛鳥浄御原宮の築造
694年	藤原宮に遷す
781年	大元寺の改修
716年	新藤原宮の改修を行な

年表

この年表からは飛鳥時代が西暦592年～710年です。山中八幡宮の始まりはこの飛鳥時代の西暦699年ということとなります。

この地の歴史は大変古いということがわかりました。

そして、時は過ぎ、松平広忠の子・竹千代(後の徳川家康)が1542年に生まれ、そして竹千代が22歳となった時、東海道線西岡崎駅から約400M程南に行ったところの上宮寺の料まい(米)を家臣が強奪したことから、領民が怒って家康(竹千代)が追い立てられ、逃げる家康が山中八幡宮の洞穴に逃げ込んだところ、追っ手が来た時に、その洞穴から白鳩が二羽飛び立って、追っ手は鳩が出てくるようでは家康は居ないと思って通り過ぎ家康は命拾いをしたということです。家康22歳の時でした。



鳩ヶ窟

ということでこの山を「身隠山」とも呼んでいます。また、洞穴を「鳩ヶ窟」と呼んでいます。

この鳩ヶ窟は昔の横穴式の墓のひとつで、九州か

ら関東まで広く分布していますと新編岡崎市史に記載されています。

この家康の命拾いによって、このお宮はより家康との関係が深まっていったものと思われます。

話はちょっとそれますが、このお宮の神主は、今川義元勢の配下であった神主竹尾氏が、寝返って徳川方につき、岡崎城に呼ばれ、竹千代(後の家康)の武運長久を頼まれ、そして、竹千代の父松平広忠は「乱舞の面」を八幡宮に奉納され、竹尾氏は以来265年間山中八幡宮の神主を続けたそうです。今は無人です。

その「乱舞の面」は昭和51年3月31日に岡崎市の文化財に指定されました。

そして「乱舞の面」は現在岡崎市美術博物館に保存されています。

これが家康の父、松平広忠が家康の武運長久を願って奉納した乱舞の面と岡崎市の文化財となったという指定書です。



そして、時は過ぎ、西暦1597年徳川家康は、社殿を酒井与四郎に、大鳥居を石川数正に命じ建立させたと記されています。その後何回も幕府から寄進を受け、改修がなされている旨が山中八幡宮記に記載されています。

また、文化2年(1815年)家康の命拾いにちなんで「ご開運身隠山」の標石が建てられています。

因みに、山中八幡宮の名称は、何度も変わりました。

最初西暦699年に山豆奈駅家の守神で「稲前神社」(写真既出…稲前神社の全景です)。

次に西暦1472年には、この稲前神社の近くにある山中城主の山中光重によって「八幡宮」に変更されました。

そして家康が、神主の竹尾氏が今川から寝返って徳川に就いたことで150石を与えるとともに「舞木八幡宮」に改名(1603年)。さらに3代将軍徳川家光が身隠山の由緒にちなんで「舞上八幡宮」(1634年)に。そして、明治維新の大政奉還により「山中八幡宮」となって現在に至っています(1868年)。

これで山中八幡宮が何時から始まったかがわかりただけのことと思います。

ところで、本題のデンデンガッサリが、何時から始まったかということです。

今となっては山中八幡宮はあれどデンデンガッサリに関する古文書が現時点見つかっておりませんので推測をするしかありません。

田遊びと田楽の歴史および山中八幡宮の歴史からひも解いてみたいと思います。

それではまず、田楽はいつごろ盛んだったんだろうかということ調べてみました。太平記を研究された著書に寄りますと田楽が盛んであった時代は、



鎌倉幕府の最後の執権者北条高時が非常に田楽を好み、京都の町から田楽師を鎌倉に呼び寄せ、毎晩これに没頭し、更に主立った大名衆に田楽師を預け広めたと、この太平記の著書の中に記述があります。鎌倉幕府は遊楽におぼれた北条高時が31歳のとき、新田義貞軍に攻められ自害し、鎌倉幕府は滅亡しています。

1991年に放映されたNHKの大河ドラマ「太平記」の中でも、この遊楽の様が演じられていたことを思い出します。このように五穀豊穡の田遊びは元々あって、それが田楽に発展し特に武士の中で広まり、田楽は鎌倉時代の終わり頃に全盛を誇ったものと考えられます。したがって、田楽より田遊びの方が古いものと思われます。岡崎市史にもそのような記述があります。

ところで、デンデンガッサリによく似た田遊びがあるのかというと、岡崎市史によりますと、県内でよく知られている田遊びは、豊川の財賀寺の田遊び、砥鹿神社の田遊び、滝山寺の田遊び(鬼祭り)、西尾のてんてこ祭りなどがあると記されています。特にデンデンガッサリと同じ方式の田遊びでは、宝飯郡菟足(うたり)神社の田遊び、豊川の財賀寺の田遊びが、中央に太鼓を据えその周りで所作や唄を唄う方式が見られると岡崎市史に紹

介されております。

・インターネットで調べたところ東京都板橋区の徳丸北野神社の田遊びも五穀豊穡を願ってのお祭りだが、性を表す描写があり、また中央に太鼓を置いて、その太鼓を田んぼに見立てて耕す儀式、太鼓の周りを牛の面をつけて四つん這いでまわるデンデンガッサリによく似たものがみつかりました。

いずれ稲作文化で栄えていた時代ですから五穀豊穡を願う祭りはずっとずっと昔からあったと考えるのが自然ではないかと思われま

そして、この地が西暦646年に関東と京を結ぶ道に、駅制が敷かれ、山豆奈駅家ができ、栄えたところと考えると平安時代か、鎌倉時代の初めの頃には、行われていたのではないかと推測されます。

いや、稲作文化で五穀豊穡を祈願する祭りだからもっとも古くから行われていたのかもしれませんが。

また、このような形で行われていたかどうかはわかりません。想像するしかありません。

これで「活動状況」と「いわれ」の説明を終わらせていただきます。

続きまして、デンデンガッサリはどんなことをするかという説明をさせていただきます。

〈中村〉大変お疲れ様でございます。副会長の中村でございます。少しばかり時間を頂戴をいたしまして、デンデンガッサリの内容につきまして少しお話をさせていただきますと思います。皆さま方の方に配布をさせていただきましたレジュメに、デンデンガッサリの概要、それとその裏面でございますが、歌詞が記載してあります。そちらをご覧くださいながらお耳だけお貸しいたきたいと思

先程から、デンデンガッサリの概要、または活動報告、山中八幡宮に関わるお話をお聞きいただきましたが、ただ今から、使います小道具をはじめとして、皆さんが大変なんだろうなと思われるような、実は歌詞の内容について少しお話をさせていただきますと思います。

皆さんからご覧をいただきまして、ただ今正面に小太鼓が設置してあります。先程から申し上げましたように、これは田んぼを表しておりまして、この田んぼを囲んで歌が歌われ、所作という動き、それから科白というものが行われていることとさせていただきます。皆さま方から向かって右側に大きな、大鏡餅これが2つ準備がしてあります。実際には大鏡餅は、12月30日に、もち米60kgを使い、約60kgですから白にして20白をつきまして、上が9段、下が11段ということで2つの大鏡餅を作ります。そしてその餅の上に置いてありますが、これが丸餅でござ

いまして、これは鎌に見立てた餅で、稲刈りをする時に使うということで、これらが準備をされます。併せまして、その右側の奥になりますけれども、おひつが用意してあります。これは前歌、後歌、その後に実は弁当ということで、弁当が配られます。そのためのご飯がおひつの中に入れてあります。本来でまいりますと、私ども保存会の歌い手に弁当が配られて、そして参列者全員にご飯ということでやはり弁当が配られるんですが、本日はそれはできませんので大変申し訳ないですが省略をさせていただきます。そしてですね、稲刈りが終わりました牛に積み込みまして、その牛に稲の束、言うなれば大鏡餅を牛に乗せまして蔵まで運び入れる。途中で実はあまりの豊作で牛が倒れてしまいます。でもそれを「よいしょよいしょ」といって皆さんのかけ声でもって蔵の中へ無事に納めるということで、祭りは終わります。

その後、その大鏡餅を今度は細かく切りまして、これを皆さん方、実は餅まきということで振る舞われるということでございます。本日はですね、それをできませんので、私どもの方で小さなお餅をご用意をしました。最後の私どもの出番が終わりました後、皆さん方にたったの2つずつですがお配りをさせていただきますので、楽しみにしていただきたいと思えます。

さて先程からもいろいろと申し上げておりますが、本来農業祭りというのは、どこの祭りもそうですが、男女の性に関するところの道具が使われたりですね、踊りが踊られたりということですが、私どものデンデンガッサリにはそれはございません。しかしながら私どものデンデンガッサリの歌詞の部分ですが、この歌詞の内容を紐解いてみますと、これはあくまでも私ども先輩の歴史家の方が、解釈をされているのですが大変エロチックな解釈になってますよということでございますので、その辺は楽しんで聞いていただければ結構だと思います。

ただ今からその歌詞の内容につきまして、少しお話をさせていただきます。最後のページのところの歌詞の欄をご覧いただきたいと思えます。なお申し遅れましたけれども、歌は前歌と後歌というふうに区切っておりますが前歌は基本的には女性の行為、後歌というのは男性の行為というふうに分けられて解説がされております。そのことだけ少し補足説明をさせていただきます。

では、歌詞についてただ今からちょっとお話をさせていただきます。歌詞の方をお目通しをいただきたいと思えます。まず最初にですね太鼓を鳴らします。その後に「デー、デー、カッサリヤー、パッ

チキヒライテ、ガッサリヤー」とこんなふうにはですね、歌い出しが太鼓に合わせて歌い出しをしてから、歌手にあたる人全員で歌うということですが、今申し上げました「デー、デー、カッサリヤー、パッチキヒライテ、ガッサリヤー」とこう歌うわけですが、この解釈をしますと、「たんぼたんぼで、稲穂がパッチと音を立てて開いて、雄しべと雌しべが結合する」こんなしゃれた意味で最初が始まります。

続きまして「京カラ買イ下ル フシ畔ノ稲ハノー七穂デ八升アル 八穂デ九ノ升ハノー」というのはですね、いかにもこれは何か豊作をとというような感じになるんですが、解釈をしますと「京都から来た女とですね、たんぼの畔で一緒に寝て、八回いたずらをして九回交わる」こんなしゃれた解釈がされております。

次でございますが「苗代ノスマズマニ 初ガヨウオリタモイノー 京ノ番匠衆ヲ召寄セテ 倉ヲ建テテタモイノー」こう歌われるわけですが、これはですね「池のそばに花が咲いて草も生え、娘も年頃に成長した。京都から大工を呼び寄せ、寝るところを建てておくれ」と、こういう女性に対するひとつの配慮というんですかね、こういう解釈になっております。

次でございますが「苗取り上手ニ 苗ヲ取りタモイノー 裏ノ方へ買イ上ゲテ 中へ手ヲ入レテノー」っていうんですが、これはですね、遊郭へ遊びにいくとこういうことでございまして「遊郭に行って遊女を招けば、しをる男の道具もうまく入れてくれるのう」なんていう洒落た解釈がされております。

次でございますが、「田ヲ植エテ 畔メテ内ヲミヤネバイノー ケサ衆ヤ他ノ衆ヤ 内ヲ見ヤネバイノー」こう歌いますが、「衣を着る尼僧も、田で働く女性もですね、かきわけてみれば、みんなねばっこいのう」なんていうそんな解釈がされております。

前歌の最後になりますが、「大ゼ町ノ真中デ サシ鎌ヲ落イター 落イターノ戻リ越シャー 又サシ落イター」こういうふうには最後のところで歌われるわけですが、これはですね「大きな道具を持つ娘と交情を結べば、入れたと思ってもすぐ出てしまう」なんていうような解釈になっております。その後が今度は先程申し上げましたように、男性の行為を表しているということですが、これが後歌になります。

「是カラ越エテ 松坂越エテ ヤレ伊勢踊リ 伊勢衆ノクセニヤ サグリタイトオツシャル サグリタキヤサグレ 河ノ瀬ヲサグレ」これは「伊勢の若い衆ですね、暗闇の中でひとつ年上の女房の体の

陰の方を無言で探しなさいよ」こんな意味だそうでございます。

続きまして「是カラミレバ 近江ガ見エル 笠買テタモレ 近江笠ヲ 近江ノ笠ハ 何ガヨーテ 締メヨガ 長ゴデ ナモキヨデー」とこう歌われるわけですが、「若い衆がかがむと股の間に尊いものが見えるので、越中ふんどしをしなさい」とこういう意味だそうでございます。

続きまして「大津ノ浦デ 焼餅チガハランダ 小豆ガシラデ ダガシラデー」とこういうように歌われるんですが、この内容はですね、「大津の遊郭で遊女が子どもを宿した。体の子どもは父親を知らん、誰が知るものぞ」とこんなふうな解釈でございます。

最後でございますが「十七八ハ 路端ノ竹ノ子 スペラポント抜ケバ ヤレ汁ガデル」これは「若い衆は、遊女と交われば、すぐ汁を出してしまう」という解釈だそうでございます。

まあこんなふうにはですね、山中八幡宮のデンデンガッサリというのは、道具としては使いませんが、歌詞の中の意味が大変エロチックであるということをお判りいただければよろしいと思います。ただこの言葉自体は古語といまして、昔言葉で記述されております。私どもも歌っておりますし何を歌っているのかなんてことを勝手に思ったりなんかしますけれども、まあ気楽にひとつお聞きいただければありがたいと思います。ありがとうございました。

続きましてデンデンガッサリの本番をということで、ミクスさんが収録していただいた内容のものが5分程ございますので、それをご覧くださいます。それから冒頭にお話をさせていただきましたように、5分程度の休憩をはさみまして、私ども今日まいっております、保存会の実演ということでお披露目をさせていただきますのでよろしくお祈りいたします。どうもありがとうございました。



〈山本〉お待たせいたしました。ただ今より山中八幡宮デンデンガッサリの実演をさせていただきます。舞台後ろに見えるのが保存会メンバーでござい

ます。よろしくお祈りいたします。それでははじめさせていただきます。

〈前唄〉

ヤー ヤー ヤー

デー、デー、ガッサリヤー、
ハッチキヒライテ、ガッサリヤー
京カラ買イ下ル フシ畔ノ稻ハノー
七穂デ八升アル 八穂デ九ノ升ハノー
苗代ノスマズマニ 初ガヨウオリタモイノー
京ノ番匠衆ヲ召寄セテ 倉ヲ建テテタモイノー
苗取り上手ニ 苗ヲ取りタモイノー
裏ノ方へ買イ上ゲテ 中へ手ヲ入レテノー
田ヲ植エテ 畔メテ内ヲ ミヤ ネバイノー
ケサ衆ヤ他ノ衆ヤ 内ヲ見ヤネバイノー
大ゼ町ノ真中デ サシ鎌ヲ落イター
落イターノ戻り越シャー 又サシ落イター

ヤー ヤー ヤー

弁当だ 弁当だ、めしだ めしだ。

さあ 腹もふくれたで もう一仕事をするかのう。



〈後唄〉

是カラ越エテ

松坂越エテサッサノサイ 松坂越エテ ヤレ伊勢踊リ
伊勢衆ノクセニヤ アーア
サグリタイトオッシャル
サグリタキャサグレ ヤレ河ノ瀬ヲサグレー

是カラミレバアーア

近江ガ見エルサッサノサイ

笠買テタモレ ヤレ近江笠ヲー

近江ノ笠ハアーア

何ガヨーテ キヨデ サッサノサイ

締メヨガ 長ゴデ ヤレナモキヨデー

締ヨガ長ゴデーエ 締ヨガ長ゴデサッサノサイ

締メヨガ長ゴデ ヤレナモキヨデー

大津ノ浦デエーエ

焼餅チガハラダサッサノサイ

小豆ガシラデ ヤレダガシラデー

小豆ガシラデーエ 小豆ガシラデサッサノサイ

小豆ガシラデ ヤレダガシラデー

十七八ハーア

路端ノ竹ノ子サッサノサイ

スッペラポント抜ケバ ヤレ汁ガデル

スッペラポント抜ケバアーア

スッペラポント抜ケバ サッサノサイ

スッペラポント抜ケバ ヤレ汁ガデル

ヤー ヤー ヤー

〈説明・太田〉今から稲刈りが始まります。ただ今鎌を配っております。太鼓が田んぼを表し、太鼓の上に乗せた大鏡餅が稲を表します。そして皆が持った平らな餅が鎌を表しております。



今年の稲はよくできたのう。よう穂が垂れて粒もパチンとはじけそうだのう。

それじゃあ、天気もいいし、稲刈りを始めるかのん。

岡崎中をたんぼを

ザラザラ ザラザラ ザラザラ

よう切れる鎌じゃねえかえ

今度はほとけいし（佛石）、ひろの（広野）、かみかりがね（上雁金）にかけて

ザラザラ ザラザラ ザラザラ

よう切れる鎌だのう。それじゃあ続けてなかしば（中柴）、のぞえ（野添）、こいざわ（小井澤）にかけて

ザラザラ ザラザラ ザラザラ

今日は天気がいいので、もう一仕事するかのうおえ。てらまえ（寺前）、いちば（市場）、むこういちば（向市場）にかけて

ザラザラ ザラザラ ザラザラ

おてんとう様が高いうちに、刈ってしまうかのう。みやした（宮下）、うしろだ（後田）、やまもと（山本）にかけて

ザラザラ ザラザラ ザラザラ

今日は天気も良かったし、おてんとう様の高いうちに、うちに運んでしまうかのん。それじゃあ、牛の支度をしてくれんかのん。

〈太田〉ただ今、牛の支度をしております。しばらくお待ちください。

わーい、重くて牛ねんぼが倒れちゃうほどのできだ。良かった、良かった、豊作だ豊作だ。



〈太田〉餅まきは本来は大鏡餅、これですね、これを細かく切って、餅投げをして皆さん方に奉納した餅を配るとこういうことになっておりますけれども、今回は会長からお話がありましたように、餅を皆さんの方に配らせていただきます。

〈中村〉はい、それでは餅を配らせていただきます。



（太鼓の音）

〈山本〉これで山中八幡宮のデンデンガッサリの実演を終わらせていただきます。